

## 個人投資家向け説明会 主な質疑応答

(2019年9-10月開催)

Q 空港での顔認証を活用した事例を紹介いただきましたが、空港を利用する機会のない人にとって、顔認証技術にはどのような恩恵がありますか。

A 街中での利用など、皆様の生活の中で利便性を向上させるような用途の開発もしています。一例として、医療分野での取り組みがあります。NECの映像解析技術を活用して内視鏡の画像を解析し、大腸ポリープの発見をサポートするシステムの研究開発を国立がん研究センターと共同で進めています。

Q 南紀白浜の実証実験はすごく面白いと思います。今後、広がっていくかと思いますが、課題などはありますか。

A この事例に限ったことではありませんが、やはりプライバシーや個人情報の取り扱いについて、しっかりと対応する必要があります。特に顔情報は個人情報の最たるものですので、利用者の方の同意を得ることが必要ですし、セキュリティも担保した上でしっかりと対応しながら事業を行っていきます。

Q 指紋認証技術は普及しているのでしょうか。

A NECでは約40年の研究の歴史があり、既に警察での犯罪捜査などで広く活用されています。顔認証や虹彩、掌紋など、複数の生体認証を組み合わせることで精度を高める取り組みも進んでいます。NECはこれ

らを組み合わせた犯罪捜査システムを米国ロサンゼルス郡保安局に提供おり、このシステムによって未解決事件の解決につながる有力な手掛かりを見つけるなど実績も出ています。

Q 1980年からNECの株を持っています。今の株価は当時の半分ほどですが、過去最高の株価はどのくらいでしたか。

A ITバブルのピークの頃の株価で3,450円、株式併合を考慮した現在の株価では34,500円となります。足もとの株価は順調に推移していますが、慢心している経営陣はいません。経営陣も常に10年、20年と長期間保有いただいている株主様を意識して経営にあたっています。

Q 新聞報道で「主力のシステム事業に集中して利益率を高める施策を押し進めてきた」とありましたが、具体的な内容を教えてください。

A プレゼン資料でお示した通り、過去10年の間に事業売却など事業構造の見直しを進めています。直近では電極事業を売却しており、ソフトウェア、サービスを中心とした事業構造に変化することで収益性を高めていきます。

Q 2020年度の売上高目標が3兆円とありますが、どの領域を伸ばしていくのでしょうか。

A 「NEC Safer Cities（セーフアーシティーズ）」や「NEC Value Chain Innovation（バリューチェーンイノベーション）」といった領域に注力しています。特に「NEC Safer Cities」は2020年度の海外売上高目標を2,000億円としており、この領域で大きな成長を見込んで

います。

Q ハッカーなどがますます脅威になると思いますが、どのような対策をしていくのでしょうか。

A NECのサイバーセキュリティは、政府から最も信頼されており、日本のシステムをサイバー上の脅威から守っています。また、セキュリティ対策などのアドバイスもしており、自信をもって取り組んでいます。

Q 海底ケーブルのシェアはどのくらいですか。

A 海底ケーブルの主要サプライヤーは、NECを含め世界で3社であり、シェアも3社で分け合っている状況です。

Q 会社四季報には2020年度の営業利益予想が1,200億円と掲載されていますが、会社発表の1,500億円と異なっているのはなぜでしょうか。

A 会社四季報には東洋経済新報社の推定値として営業利益1,200億円が掲載されていると考えられます。NECの公表値は1,500億円であり、当初から変更ありません。

以 上